

製品名: Cdc25C (リン酸化Ser198) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04423**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:5000-1:10000

分子量

抗原情報

遺伝子名	CDC25C
別名	CDC25C; M-phase inducer phosphatase 3; Dual specificity phosphatase Cdc25C
遺伝子 ID	995.0
SwissProt ID	P30307
免疫原	抗血清は、ヒト CDC25C の Ser198 リン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 164-213

背景

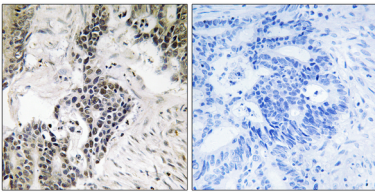
細胞分裂周期 25C (CDC25C) ホモサピエンス この遺伝子は、細胞分裂の制御において重要な役割を果たす保存されたタンパク質を

コードしています。コードされているタンパク質は、サイクリン B に結合した CDC2 の脱リン酸化を誘導し、有糸分裂への移行を引き起こします。また、p53 誘導性の増殖停止も抑制します。この遺伝子には、複数の選択的スプライシングを受けた転写バリエーションが記載されています。[RefSeq 提供、2015 年 12 月],触媒活性: タンパク質チロシンリン酸 + H(2)O = タンパク質チロシン + リン酸。発生段階: 主に G2 期に発現。機能: 有糸分裂制御において、用量依存的な誘導因子として機能する。これは、細胞周期の進行に必要なチロシンタンパク質ホスファターゼです。CDC2 を直接脱リン酸化してキナーゼ活性を活性化する。PTM: CHK1 によって Ser-216 がリン酸化される。このリン酸化により 14-3-3 タンパク質の結合部位が形成され、ホスファターゼ活性が阻害される。類似性: MPI ホスファターゼファミリーに属する。類似性: 1 つのロダネーゼドメインを含む。サブユニット: HIV-1 Vpr と相互作用し、CDC25C ホスファターゼ活性を不活性化する。

研究分野

Cell_Cycle_G1S;Cell_Cycle_G2M_DNA;卵母細胞減数分裂;プロゲステロンによる卵母細胞成熟;

画像データ



CDC25C (リン酸化 Ser198) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト大腸癌の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。